

日本 DMAT 隊員養成研修に参加しました(2016/1/25-27)

テーマ：災害医療、災害派遣医療チーム（DMAT）、日本集団災害医学会セミナー

場所：国立病院機構災害医療センター、内閣府災害対策本部予備施設（東京都立川市）

2016 年 1 月 25 日(月)～27 日(水)の3日間、東京都立川市の国立病院機構災害医療センター及び内閣府災害対策本部予備施設（立川防災合同庁舎内）において平成27年度第7回日本 DMAT 隊員養成研修が開催され、佐々木宏之助教(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)が参加しました。DMAT (Disaster Medical Assistance Team、災害派遣医療チーム)は、大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急医療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1 チーム医師1 名・看護師2 名・業務調整員1 名の計4 名を基本単位とし、発災直後の急性期に概ね 48 時間（移動時間を除く）を目処に活動します。現在までに約1 万人の隊員が登録され、国内外での自然災害、人為災害、マスギャザリング（国連防災世界会議、サミットなども含まれます）事故等に備え、年間を通じて研鑽を積んでいます。

研修では災害・救急医療の専門家や災害時に連携する各機関（救急、消防、警察、自衛隊他）の代表者による講義と机上演習、また広域医療搬送（国主導の自衛隊機による傷病者の医療搬送）を想定した SCU (staging care unit、航空搬送拠点臨時医療施設)運営訓練など実災害を想定した実践的訓練を受け、最後に筆記・実技試験（トリアージ、現場救護所診療、EMIS 入力、通信）を受けました。今回は日本全国から 63 名の受講者が研修・試験に臨み、無事全員合格となりました。今後、DMAT 隊員として厚労省に登録され、次はいよいよ出動となります。

立川市にある内閣府災害対策本部予備施設は、首都直下地震等で霞ヶ関に問題が発生した際、政府機能が移転する施設の一つで、今研修会では模擬 SCU として使用されました。災害時を想定してか、訓練時には一切暖房が使われず、粉雪舞い散る強風のなか、刻々と状態の変化する傷病者の模擬診療にあたりました。傷病者の安定化治療もさることながら、災害時には自分の体調管理にも注意しなければならないと痛感しました。

また、佐々木助教は 1 月 10 日(日)に東京都で開催された第 56 回日本集団災害医学会セミナーに参加しインストラクター資格を取得しました。あらゆる職種を対象に災害医療の基礎知識及び技術を学ぶ機会を提供する本セミナーの東北大学開催に向け今後活動していく予定です。



SCU 本部でブリーフィングを受ける各都道府県からの DMAT 研修受講者



宮城県 DMAT 混成チーム



模擬傷病者としてレスキューカーで運ばれる佐々木助教